

2024 年 11 月 26 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【待つことも相場】

目先の相場は、次期トランプ政権の政策を先読みして、右往左往しているように感じます。

トランプ新政権の誕生が確定してからは、「ドル高相場」であった、かつ、現在もその傾向が維持されている、と考えます。

しかし、次期政権での財務長官の人事を巡り、その思惑から長期金利が下がると、一転して、ドルが売られた。

ところが、その話題も、時間の経過で劣化すると、その次の思惑によってドルが買われる、といった「猫の目」のような展開です。

+++++

来年（2025 年）になれば、トランプ次期米国大統領は誕生するのだから、それを待って、これからの対応を考えれば良い、と考えています。

トランプ次期米国大統領が、どういった政策を採るのか、事前にわかるものもあるでしょうが、わからないものに関しては、次期大統領本人も決めかねているものもあるでしょう。

トランプ新大統領は、意外性のある人物だから、予想外の政策を打ち出す可能性も大いにあり得る、と考えます。

だとすると、今の時点で、わからないものに関しては、考えても無駄。

時間が経過すれば、はっきりすることは、それを待つという姿勢も必要と考えます。

+++++

まだ、クリスマス休暇の雰囲気はありませんが、今週の感謝祭（2024 年 11 月 28 日のサンクスギビングデー）を終えると、マーケットは、いわゆる「クリスマス相場」に突入します。

そして、来月（12 月）にも FOMC が予定されています。

「クリスマス相場」の時は、市場参加者が少ないので、例年のごとく、突飛なことも起こり易いだろう、と考えます。

少々気が早いのですが、もう、年内は、無理をしないで、適宜流すことを考える時期、と考えます。

+++++

繰り返しのなってしまいますが、どうしても、今の時点で、最も関心の高い相場の材料は、「トランプ米国大統領が、どのような政策を打ち出すのだろうか？」ということでしょう。

もちろん、マスコミなどは、
「あーでもない、こーでもない」
と、想像を豊かにしています。

米国の新政権の人事を見て、さらに、想像をたくましくしています。

しかし、それらの想像が、正しいのか、間違っているのか、今の時点では、検証ができません。検証の仕様がありません。

想像による（根拠のない）、無責任なコメントを聞いても時間の無駄。

来年の新大統領の就任式が終われば、トランプ大統領本人が、徐々に明らかにすることなので、謙虚に、心静かに、それを待つという姿勢も大切なのではないのでしょうか？

「分からないことは、分からない」

「分からないことに対して、無理やり想像すると、間違いを犯し易い」
そう考えています。

+++++

(2024 年 11 月 26 日東京時間 12 : 45 記述)